

音源探索情報紹介収録

音源探索情報紹介【2015No.16】(HP 掲載)

Web Site(雑誌) : ネットオーディオ No.20

URL(巻号) : 第 5 巻 4 号

Site 標題 : 録り下ろしハイレゾ音源

副題 :

関連 Site :

管理者 : 音元出版

課金 : 付録

備考 1 : 和文

備考 2 :

備考 3 :

概要 :



ダウンロードできるのは、東京キネマ・ジャズトリオが 11.2MHzDSD と 5.6 MHzDSD の各 1 曲ずつ、今村祐司が 192KHz,24bit の 3 曲と対になった 2.8MHzDSD の 3 曲、宮崎友紀子が 382 KHz,32bit 1 曲と 192KHz,24bit の 2 曲で、p18 にダウンロード方法の記事があり、ダウンロードコードがとじ込み付録にあります。

詳細は雑誌もしくはネットオーディオ No.20 の記事紹介サイトに記載があります。

<http://www.phileweb.com/editor/net-audio/20/>



東京キネマ・ジャズトリオは 11.2MHz/1bitDSF と 5.6MHz/1bitDSF の聴き比べができます。今村祐司は 3 曲ずつ 192KHz,24bit FLAC と 2.8MHz/1bit DSD の聴き比べができます。宮崎友紀子は 384kHz/32bit Float WAV に加え、マイク違い (ノイマン M50 とノイマン M269) の 192kHz/24bit WAV と DAW 違い (ProTools と Pyramix) の 192kHz/24bit WAV の聴き比べができます。

試聴は、TASCAM Hi-Res Editor と micro iDSD の組み合わせで行いましたが、Hi-Res Editor は FLAC が再生できませんので、AudioGate3 により 192KHz,24bit FLAC から 192KHz,24bit WAV に変換してから再生しました。

東京キネマ・ジャズトリオの 11.2MHz/1bitDSF と 5.6MHz/1bitDSF の比較では、前者の音の肌理の細かさは明らかです。

今村祐司の 192KHz,24bit WAV (FLAC からの変換) と 2.8MHz/1bit DSD の比較では、PCM と DSD の違いは分かるものの、それほどハイレゾの魅力を感じることはできませんでした。

宮崎友紀子の録音はハイレゾ録音研究所が実施したもので、非常によく録れており、録音の様子が p28 の記事に詳しく掲載されています。宮崎友紀子の 384kHz/32bit Float WAV と 192kHz/24bit WAV の比較では、前者の優位性は明らかです。

興味深かったのは宮崎友紀子のマイク違い (ノイマン M50 とノイマン M269) と DAW 違い (ProTools と Pyramix) の違いの比較では、マイク違いも DAW 違いもきちんと聴き分けられました。好みとしては、マイク違いではノイマン M269 の方が、DAW 違

いでは **Pyramix** の方が、よりハイレゾらしい魅力を出していたようです。なお、**Pyramix** の **192kHz/24bit WAV** は **384kHz/32bit** 録音から落としたものとのことです。さらに宮崎友紀子の **384kHz/32bit Float WAV** を **TASCAM Hi-Res Editor** で **11.2MHz/1bitDSF** に変換して聴いてみましたが、宮崎友紀子のボーカルが一段と自然に聴こえるようになりました。